

「寄り添うということ」

5歳児に途中入園してきたA男がいました。コロナ禍も引き金となり、心無い言葉を投げかけられたこと、園と職員の対応に信頼を置けなくなったことにより、A男自身、登園拒否となってしまう、転園により自園にきました。

新しい生活が始まり、A男は、不安と高揚感を抱え登園してきました。職員や園児に対してわざと困らせる「試し行動」が見られるようになりました。様々な試し行動を行い、やりつくしたA男からは、「何で、みんな怒らないの?」という言葉が出てきました。なんとも切ない言葉でした。その後は、挑むような険しい表情もなくなり、本来のA男の姿であろう、「不安」と「恐怖」を全身で表現し始めました。登園時は、家で大事にしている玩具をカいっばい握っています。自園は、入園当初は不安定になることがあるため、家で使用している物を園に持ってきても良いということにしています。園生活に慣れ、お互いの信頼関係が生まれてくれば、いつの間にか、家から大事な物を持ってくることもなくなるからです。

ある日の朝の出来事です。A男の母は、「家の玩具だから、持ってこない方がいい」と言葉強く説得していました。それを見た、3歳のB男が、走り寄ってきて「いいんだよ。おこらないで。それは、おまもりだから」と、拙い言葉で一生懸命にA男の母に伝えていました。A男の母は「ありがとう」と泣きながら何度も言っていました。実はこのB男も、入園当初不安でいっぱい様々な玩具を家から持ってきた一人です。このB男の「お守りだから大丈夫だよ」の言葉の裏側には「僕もそうだったんだよ、だから大丈夫だよ」の気持ちがたくさん詰まっているように感じました。幼い子どもにもある寄り添いの心。A男に寄り添い、A男の母に寄り添い、自分に寄り添ってくれた先生。B男。このB男の姿にどれだけの人が幸せを感じられたらと思う。誰かに、気持ちを分かってもらえるということは、安心感と幸福感を得ることができると思います。寄り添う中にはきっと神様の存在もあることでしょう。

昨今家庭の事情も複雑で且つ多様化しており、子育てがより難しい状況になっています。「寄り添う」ということは、自分とは異なる相手を受け入れ、互いを認め合いながら過ごすということではないかと考えています。これは、子ども同士、保育者と園児・保護者と園児・保護者と職員等、より良い人間関係を築き上げる上で不可欠であると感じると同時に、「共に育つ」というキリスト教保育の精神そのものであると思います。どんな状況下に置かれても、神さまがひとり一人に下さった「寄り添う心」を忘れずに過ごしていきたいですね。

なでしこ子ども園園長 藤巻真由美
第2なでしこ子ども園園長 鈴木 真理
クレイシュ保育園園長 小清水幸子

2月聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

ローマ信徒への手紙12章15節

2月主題

「だいすき」0歳

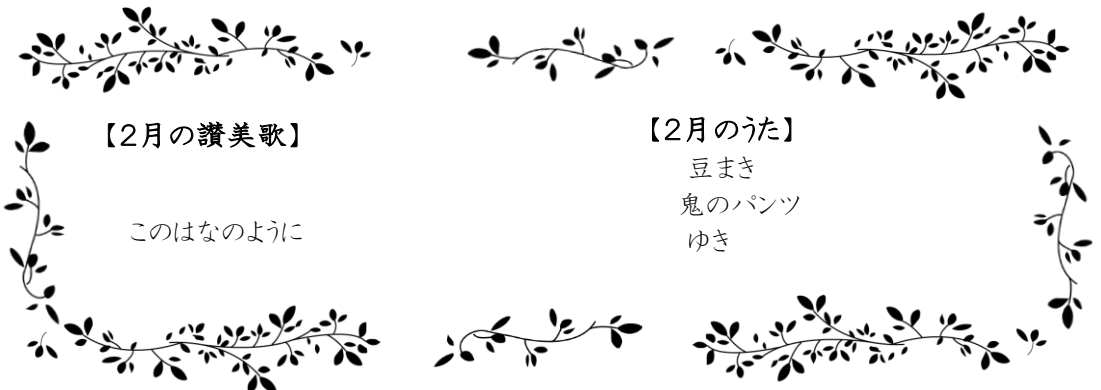
「またあした」1・2歳

- ・神さまからいただいた存在として大切にされる。
- ・一人ひとりの生活リズムや発達段階を大切にされて過ごす。
- ・おだやかでやさしいことばをかけられ、満たされて過ごす。

- ・保育者の姿やことばを通して神さまと出会う。
- ・新しい環境や友だちに出会う。
- ・自分らしさを受け入れられ、安心して過ごす。

～子どもたちの姿～

凜とした寒さの中にも、心地よい晴天の続くこの頃、冬ならではの遊びや羽子板やコマ遊び等の伝統的な正月遊びを通し季節を感じました。コマづくりでは好きな色や模様の紙を選び、テープで牛乳パックに貼り付けました。自ら作ったものはひろさわ愛着が湧き、遊ぶことを心待ちにしていました。みんなで一斉に回し始めると年上のクラスの友だちがリードしてあげながら回転させると「すごいね」「こっちも」と手伝ってもらいながら楽しんでいました。しばらくすると「音がするね」と回る音に気が付き友だちにも伝えていました。今年度も残り2か月となりました。成長を見守りながら、毎日を大切に過ごしていきたいと思います。



	月	火	水	木	金	土	日
2月の予定表				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11 建国記念の日
	12 振替休日	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23 天皇誕生日	24	25
	26	27	28	29			
◎戸外活動の際に上着を着用する場合がありますので、薄手の動きやすい上着の用意をお願いいたします。							